

**令和 8 年度次世代エンジニア育成コンテスト実施業務委託
質問書に対する回答**

質問内容	回 答
①前年の応募総数と課題はありますか？	前年の応募総数と課題は以下のとおりです。 応募総数： 94 件 課題：当該コンテストにおける主な課題は、応募作品数の伸び悩みです。
②過去事業および本事業の期待について より適切な企画提案を行うため、以下について ご教示ください。 過去に類似事業があれば、その実績および課題 本事業において特に重視されるポイント	過去の類似事業としては、令和 7 年度まで実施した「ジュニアプログラミングコンテスト」があります。 当該コンテストにおける主な課題は、応募作品数の伸び悩みです。 本年度事業では、初の試みとして「AI 部門」を新設しております。 本事業において特に重視するポイントは、AI 部門の募集において、応募者（生徒・学生）が企業の課題内容をより深く、詳細に理解し、自身の作品制作に活かせるような仕組みを構築することです。これにより、質の高い作品応募と参加者の学習意欲向上に繋がることを期待しています。
③過年度実績について 仕様書に「過年度のプログラミングコンテストの審査委員を参考に」「昨年度の審査基準を参考に」との記載がありますが、過年度の審査基準、審査委員名簿、応募件数等の実績データをご提供いただくことは可能でしょうか。	提供できる内容は以下のとおりです。 審査委員名簿、審査基準：下記 URL よりご確認ください。 https://diff-shizuoka.jp/ 応募件数等の実績データ：令和 7 年度の実績総数は 94 件です。
④応募規模および KPI について 本事業において、県として想定している以下の目標値があればご教示ください。 応募作品数（全体及び各部門） 参加対象（小学生・中学生・高校生・大学生）の想定割合 最終審査会の来場者数・観覧者数	本事業において、応募規模および KPI として具体的な数値目標は設定しておりません。 しかしながら、昨年度開催した前身の「ジュニアプログラミングコンテスト」における応募総数 94 件を、提案の際の目安としてください。 特に今年度新設する AI 部門においては、応募総数の増加を強く期待しております。提案において、この AI 部門の応募促進策を具体的にお示しください。

<p>⑤AI 部門の審査基準について</p> <p>仕様書において「AI 部門の審査基準は必要に応じて有識者から助言をもらうこと」とありますが、これは契約後に受託者が行うものと理解しています。提案段階での AI 部門の審査基準案について、どの程度の具体性を求めていますか。</p>	<p>提案段階では、現在検討されている AI 部門の審査基準案、および助言を依頼する予定の有識者像（例：専門分野、所属機関など）について、具体的にご提示ください。これにより、貴社が AI 部門の審査品質向上にどのように取り組むかを確認させていただきます。</p>
<p>⑥AI 部門の対象レベルおよび使用ツールについて</p> <p>AI 部門の設計にあたり、以下についてご教示ください。</p> <p>想定する参加者レベル（初心者～上級者） 使用可能なツール（例：生成 AI、API 利用等）の制限有無 プログラミングスキルの必須性の有無</p>	<p>本業務は、次世代を担うエンジニアの AI 活用スキルおよび課題解決スキルの養成を目的としております。</p> <p>そのため、参加者レベルはプログラミング経験の有無を問わず、「初心者から」幅広い層を想定しております。</p> <p>使用可能なツールについては、特定の制限は設けておりません。</p> <p>プログラミングスキルは、作品の応募・制作において必須ではありません。AI ツールを効果的に活用し、課題解決を実現する内容であれば、プログラミングを用いないアプローチも歓迎します。</p>
<p>⑦広報・学校配布について</p> <p>仕様書に「市町教育委員会及び学校への周知以外の周知や配布方法について提案すること」とありますが、市町教育委員会及び学校へのチラシ配布は県側で実施いただけるのでしょうか。それとも受託者が直接配布するのでしょうか。</p>	<p>市町教育委員会および学校への周知は、県が実施する予定です。ただし、本業務の一環として、周知用のチラシを作成（デザイン及び印刷）いただくことを想定しています。</p>
<p>⑧市町教育委員会及び学校への周知は県で実施する予定でしょうか？</p>	<p>市町教育委員会および学校への周知は、県が実施する予定です。ただし、本業務の一環として、周知用のチラシを作成（デザイン及び印刷）いただくことを想定しています。</p>
<p>⑨副賞について</p> <p>副賞について「企業と連携して取り組むこと」とありますが、副賞の費用は委託費から拠出するのでしょうか、企業協賛で賄うのでしょうか、あるいは両方を想定しているのでしょうか。</p>	<p>副賞の費用については、委託費からの拠出と企業協賛の両方を想定しています。詳細な費用負担割合や調達方法については、受託者の判断に委ねます。参加者が応募したくなるような魅力ある副賞を提案してください。</p>

<p>⑩契約条件について</p> <p>契約書（案）第7条において再委託は原則禁止とされていますが、見積書内訳書の費目に「再委託費」が設けられています。提案段階で再委託先を明示する必要がありますか。</p>	<p>可能であれば提案段階で再委託先を明示してください。現時点で具体的な再委託先が決定していない場合は、再委託を予定している業務内容、および想定される再委託先の選定方針や候補を示してください。</p>
<p>⑪契約条件について</p> <p>契約書（案）第22条の履行遅滞による違約金について、天災その他やむを得ない事情により最終審査会等の日程変更が生じた場合も違約金の対象となるのでしょうか。</p>	<p>ここで言う遅延とは、契約書第4条に定める委託期間内の目的物の納入を指します。最終審査会の日程に変更があった場合でも、委託期間内に目的物の納入が確認できれば違約金の対象とはなりません。また、天災その他やむを得ない事情により遅延が発生した場合の取り扱いについては、協議の上、決定いたします。</p>
<p>⑫募集要項について</p> <p>募集要項において、企画提案書には『協力企業及び課題内容、課題数』や『連携する具体的な企業名』を記載することとされていますが、提案提出（4月30日）の段階では、協力企業からの協賛・課題提供の内諾を得ておらず、『打診予定の企業名とその企業を想定したアプローチ方法』の提案でも差し支えありませんでしょうか。</p>	<p>提示いただいた内容（打診予定の企業名とその企業を想定したアプローチ方法）を提案いただくことで支障ありません。</p>
<p>⑬会場費用について</p> <p>仕様書において「1月24日（日）に静岡県コンベンションアーツセンター グランシップを仮予約している」とありますが、この会場の利用料金は、本委託費（上限1,000万円）の中に含めて見積もる必要がありますでしょうか。それとも県側で別途ご負担いただけるのでしょうか。</p>	<p>会場の利用料金は、本委託費（上限1,000万円）の中に含めてお見積もりください。</p>
<p>⑭企業連携の位置付けについて</p> <p>本事業における企業連携について、以下の点をご教示ください。</p> <p>県として想定している連携企業の有無 企業による課題提供の必須性 協賛金や協力金の取り扱いに関する考え方</p>	<p>県として、現時点で想定する特定の連携企業はありません。</p> <p>AI部門においては、企業からの課題設定を必須としてください。</p> <p>その際、企業が保有する実際のデータの提供が難しい場合は、ダミーデータや模擬データでも結構です。多くの企業に協力いただけるような柔軟なアプローチをご検討ください。</p> <p>協賛企業からの金銭的なご支援は想定しておりません。しかしながら、受賞者への賞品提供</p>

	など、金銭以外の形でのご協力については歓迎いたします。
--	-----------------------------